



## 「伊能忠敬生誕・青春ウォーク」の一行が 忠敬の父の実家で一休み

今から約200年前、日本中の海岸線を歩いて正確な日本地図を作りあげた郷土の偉人「伊能忠敬」を偲んで歩く「九十九里忠敬生誕・青春ウォーク」の一行約130名が、9月10日の金曜日、忠敬の父「貞恒」の生まれたとされる小堤の神保新さん宅に立ち寄りしました。

『伊能忠敬』は、1745年、山辺郡小関村（現在の九十九里町小関）の網元の三男として生まれ、その後、佐原の伊能家の養子となり、50歳を過ぎてから江戸に出て天文学や測量学を学び、55歳から全国を歩いて正確な日本地図を作ったことはよく知られています。しかしながら、子供の頃に当横芝町で暮らしていたことはあまり知られていません。

1751年、忠敬が7歳の時、網元の娘で家業を継いでいた母が病死してしまったため、婿入りしていた父貞恒は、兄と姉を連れて実家の小堤（現在の横芝町小堤）に帰ってきたとされており、忠敬も11歳になると父の元に向かって、18歳までの約7年間を小堤で暮らしたそうです。

一行を出迎えた新さんや實川町長は、忠敬と神保家のつながりなどを写真入りの資料で説明。みなさん熱心に聞き入っていました。

横芝町はこうのように、忠敬が子供の頃に過ごした思い出の地とされています。特に小中学生のみなさんは、郷土の偉人「伊能忠敬」に興味を持ち、勉強してみたいかががでしょう。



## 土建組合が建築に関する “なんでも相談”

8月23日の日曜日、町文化会館駐車場を会場に建築に関する“なんでも相談”が行われました。

この相談会は、千葉土建組合横芝分会が、新築や改築などで悩んでいるみなさんに、自分たちの持っている知識や技能を少しでも役立ててもらおうと行なったもので、このほかにも、切れなくなった包丁の磨ぎ方やまな板削りなど、訪れたみなさんに親切丁寧な指導をしていました。



包丁磨ぎの指導も行われた“なんでも相談”



梯子の上でみごとな獅子舞い

## 呼吸のあつた妙技を次々に披露 中台の『梯子獅子』

8月30日の日曜日、中台の大宮神社で「風祭り」が行われ、恒例の『梯子獅子』が奉納されました。

中台の『梯子獅子』は、地域のみなさんの悪霊払い、火伏せ、息災延命を祈り行われるもので、平成3年12月に幕張メッセで開催された「食と緑の博覧会」でも披露された大変珍しい獅子舞いです。

この日は台風4号の影響で、時折風雨が強まるあいにくの天候となってしまう、予定時刻よりも早めの午後3時ごろから獅子舞いは始まりました。うっそうと茂る境内の大銀杏に立て掛けられた約15メートルの梯子の上で、同地区若獅子会の青年二人の扮した獅子が、横になったり逆立ちしたりする妙技を次々に披露。二人の呼吸のあつた空中アクロバットのような獅子舞いに、見物客からは大きな拍手が送られていました。